

投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	県土整備部土木局 地域道路室	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	地域道路室長 中村 誠 (課長補佐兼県道係長 松田 智)	内線	4362 (4376)
------	-------------------	---------------------	---------------------------------	----	----------------

事業種目	道 路	事業名		事業区 間		総事業費	9.7億円
		道路改築事業 主要地方道 大谷峠原神代線		洲本市五色町広石 ～ 広石下		内 用地補償費	3.5億円
所 在 地			事業採択 年度	着工 年度	完成予定 年 度	進捗率 (内用補進捗率)	約40% (43%)
洲本市五色町広石 ～ 広石下			H11	H11	H26	残事業費	5.8億円
事業目的				事業内容			
<ul style="list-style-type: none"> 本路線は、淡路島内陸部を縦断する幹線道路で、淡路地域の交流連携を促進する機能を担うとともに、生活道路としての重要な役割を持つ道路である。 事業地周辺は小学校や地域福祉センターが点在するなど地域の生活拠点であるが、当該区間は、幅員狭小で大型車のすれ違いが困難であるとともに、通学路でありながら歩道が無く、交通安全上においても危険な状態にある。 災害時に1次緊急輸送道路(国道28号)を補完する道路であり、緊急輸送道路の代替路線としての役割を果たす。 本バイパスを整備することで集落内の通過交通を排除し、安全で円滑な交通を確保するものである。 				道路改築事業(バイパス) L=1,380m 【構造規格】3種3級(山地部) 【計画幅員】6.0(11.0)m(2車線+片側自歩道) 【計画交通量】5,400台/日(H42) 【現況交通量】6,931台/日(H17交通センサス) 【自転車歩行者交通量】210人台/12h(") 【負担割合】：県10/10(合併支援道路整備事業)			
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化		<ul style="list-style-type: none"> 平成18年2月に旧洲本市と旧五色町が合併し、新市が誕生したことで今後ますます地域産業の活性化や日常生活の利便性、安全性の向上を図る上で、合併支援道路に対する地元の期待は高い。 島内陸部を縦断する本路線は、平成16年10月の台風23号災害において、物資輸送、災害復旧作業等に重要な役割を果たしており、防災機能のさらなる向上が求められている。 					
進捗状況		<ul style="list-style-type: none"> 平成11年度より事業着手し、平成20年度までに約880mについて、一部舗装と起点部交差点の改良を残し完了した。平成20年度までの進捗率は、用地補償：約43%、工事：約34%である。 					
評価視点		評価結果の説明					
(1)必要性		<ul style="list-style-type: none"> 現道の通過交通を排除し、通行車両及び歩行者の安全性、円滑性を確保するとともに、合併後の新たなまちづくりを支援する。 本事業により、本路線の南あわじ市掃守地区以北から(主)志筑郡家線経由で津名一宮ICや国道28号に至る区間が概ね2車線が確保されることとなり、淡路内陸部を縦断する幹線道路としての機能強化が図られる。 					
(2)有効性・効率性		<ul style="list-style-type: none"> 地区内の通過交通と生活車輛を分離することで、走行時間短縮とともに安全性と利便性が向上し有効性が高い。 引き続き残事業区間の整備を行うことで、バイパス全体の事業効果が発現される。 費用便益比 残事業 B / C = 1 . 7 					
(3)環境適合性		<ul style="list-style-type: none"> 現道からバイパスへの交通転換により、沿道騒音の低減や排気ガスを削減でき、地域の環境改善に寄与できる。 景観に配慮した防護柵を設置する。 歩道部の透水性舗装により、雨水を地下水に還元するとともに、道路交通環境の改善が図れる。 					
(4)優先性		<ul style="list-style-type: none"> 交通の円滑化や現道の交通安全につながる事及び約40%まで工事が進捗していることから、残工事区間の用地買収につとめ、重点投資により、早期の全線供用が望まれている 					
再評価 の結果	継続	左の理由	<ul style="list-style-type: none"> 市町合併など事業の必要性は増しており、バイパスの6割が完成していることから、継続して事業を実施する必要がある。 				

事業進捗状況概要図（継続：再評価）

事業名	道路事業	路線・河川名	主要地方道 大谷鮎原神代線
	凡例 H11～H20 H21～		
	事業進捗状況・予定	整備効果	
全体	H11～30年度【事業費＝9.7億円】 事業費9.7億円、延長約1.38km、橋梁3橋 物件補償：9件、用地：19,000㎡	集落内への通過交通が分散することで、交通混雑が解消され安全安心な道路が形成される。	
過去 10年間 (実績)	H11～20年度【事業費＝3.9億円】 [全体]用地取得率43% 物件補償8件 道路改良済区間 L=0.88km (起点より880m) (起点部交差点L=160mのアスファルト舗装が未実施)		
今後 6年間 (予定)	H21～26年度【事業費＝5.8億円】 平成21～22年度 詳細設計、用地測量完了予定。 平成24年度 用地買収完了予定。 平成26年度 全線完成予定。		

継続事業
当初計画及び実施工程

工種	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
設計・調査	■		■			■		■		■		■				
用地補償				■		■		■				■		■		
道路改良						■						■				
A号橋						■								■		
B号橋							■						■			
C号橋							■								■	

B / C根拠説明資料例

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	走行時間短縮便益 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用: (交通量 × 走行時間) × 時間価値原単位 × 365日
	走行経費減少便益 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: (交通量 × 距離) × 走行経費原単位 × 365日
	交通事故減少便益 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額: [交通量 × 距離 × 交差点以外の事故損失原単位 + 交通量 × 主要交差点数 × 交差点部事故損失原単位]

費用便益比(B/C)算出根拠
残事業費の投資効率性

事業	事業名		B(便益)		C(費用)			B/C	
			便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
道路	主要地方道 大谷鮎原神 代線	残 事業 費	走行時間 短縮便益	873	時間短縮:0.6分 (2.3分 1.7分)	565	469	96	1.7
			走行経費 減少便益	103					
			交通事故 減少便益	0					
			計	976					

(主)大谷鮎原神代線 位置図

凡例
12h[24h]交通量
(H17センサス)

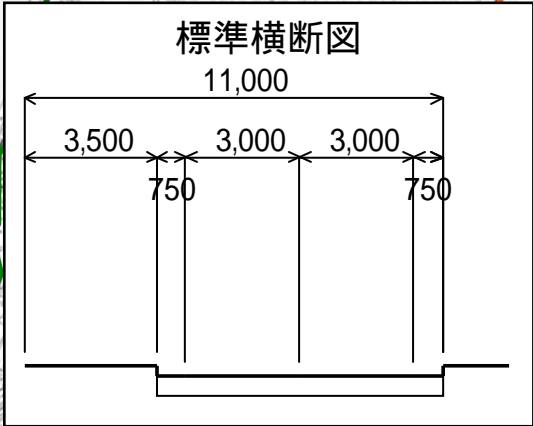
洲本市役所
五色庁舎
ウェルネスパークパーク五色
高田屋嘉兵衛公園

(主)大谷鮎原神代線 (H11 ~ H30)
L=1,380m W=6.0(11.0)m
全体 9.7億円

五色中学校
広石小学校

5,501 [6,931] 台/日

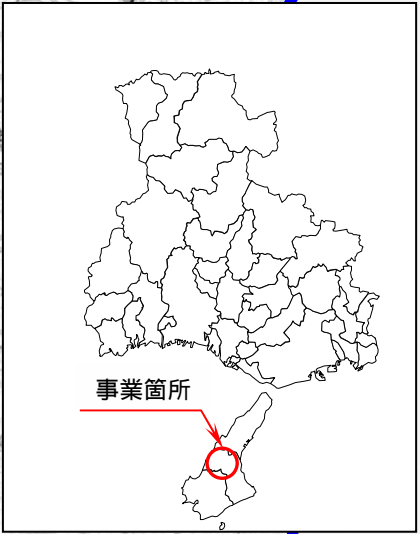
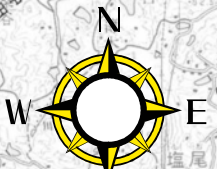
新五色浜県民サンビーチ



洲本市

南あわじ市

淡路市



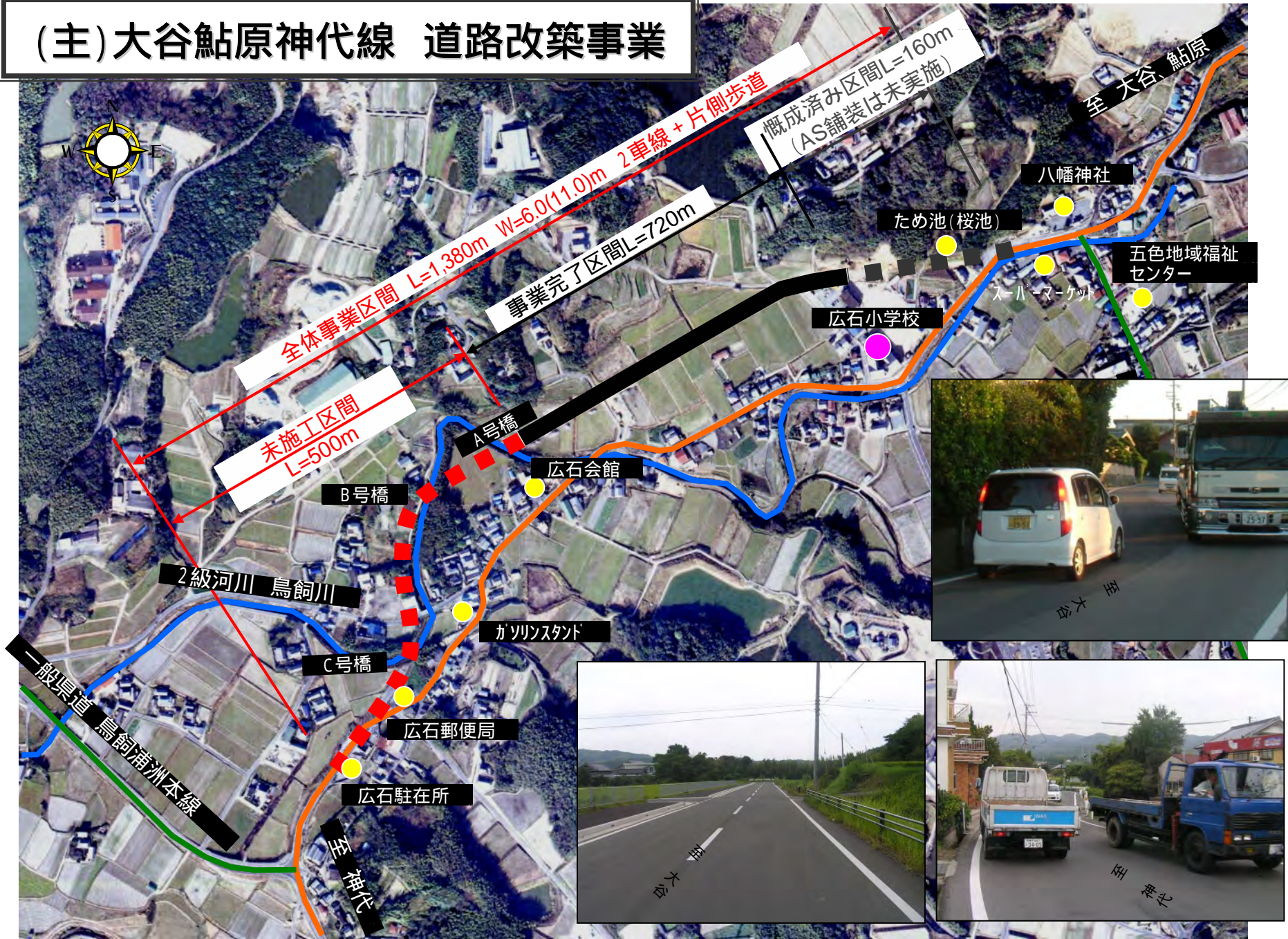
洲本TC

国道28号

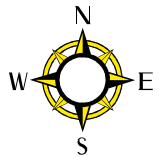
洲本市役所

神戸淡路湾門自動車道

(主)大谷鮎原神代線 道路改築事業



歩道整備の必要性



全体事業区間 L=1,380m W=6.0(11.0)m 2車線+片側歩道



鳥飼、広石下地区
広石小 19名
五色中 38名

堺、広石下地区
五色中 41名

若葉台地区
広石小 59名

広石中、県住地区
広石小 21名
五色中 22名

広石上、北地区
広石小 15名

- 凡例
- 現 通学路
 - 新 通学路



本路線は、小中学校の通学路となっているが、交通量が多く、見通しの悪いカーブが連続しており、死傷事故率は県平均を下回るが、早急な対策が必要である。また、現道には歩道が整備されていないにも関わらず、H17センサスによると自転車歩行者210人・台 / 12hが通行しており、危険な状態であることから、自歩道を設置し、安全な歩行空間を確保する。